

智学館中等教育学校自己評価表

目指す学校像		人間の尊厳を大切にし、世界で活躍できる人材を育てる			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
創立10年を迎えた昨年度は、新たな10年間を見越した教育内容及び教育諸活動等の再検討が大きな課題であったが、まだまだ道半ばである。特に新たなニーズに対応する教育内容・活動等への挑戦、ICT教育推進、教職員研修の充実、また6年間の学校行事等の精選化に努め、本校の教育内容や活動等の成果を周知するための広報活動が課題である。		学力の向上・進路実績の向上	・新しい高大連続のあり方を踏まえ、各教科および各授業担当者が生徒一人ひとりに見合った指導を実践する。	B	
		教職員の質の向上	・経営計画に則った業務を行う。 ・教職員一人ひとりが自分の仕事におけるスキルを高める。	B	
		法人内各学校との連携強化	・常磐大学、常磐短期大学と新しい連携および新たな入試制度を模索する。	A	
		生徒募集の強化	・志願者、入学者ともに、学ぶ意欲の高い受験生を確保する。 ・学習塾との関係を強化する。	C	
		生徒指導の強化	・全教員が同じ視点・共通認識を持って、生徒指導を行う。 ・公共の場でのマナーを守ることの大切さを生徒に理解させる。	A	
		地域連携の強化	・校外で開催される各種行事やイベントに、ボランティアなどとして積極的に参加し、地域との連携を図る。	A	
評価項目	具体的目標			評価	次年度(学期)への主な課題
学年 1年次	基本的な生活習慣の確立	学校生活に慣れさせ、集団生活のマナーやルールの理解・遵守を図る。	A	B	学校や社会のルールを守ると共に、自ら挨拶する態度の徹底
		パーソナルレコードを通して自己の生活を振り返らせ、適切な時間の活用を意識させる。	B		時間管理や必要な情報を記録し振り返ることの継続
	互いを認め合い思いやる心の育成	互いの価値観を認め合い、自他ともに尊重し合う態度を育む。	B		互いを認め合い協力や貢献を喜ぶ態度の育成
		クラスの一員であることを自覚させ、係や委員会などの役割に責任を持つ意識を養う。	A		責任感を持ち自己肯定感を高める取組の継続
	将来の夢や目標に向けた主体的な学び	主体的な学習習慣と態度を確立させ、各教科の知識を身につけさせる。	B		自ら思考し課題解決に向かう意識を向上させる指導
		学びを通して夢や目標を持たせ、将来像や職業観の意識づけを図る。	B		自ら思考し課題解決に向かう意識の向上

	HRにおける自己意識の育成	ISや行事などの活動を通して、協力や団結することの大切さを学ばせる。	A	目標を持ち創意工夫して積極的に活動させる
		個に応じた達成感と自己肯定感を育成する。	B	短期目標達成の成功体験を継続して積ませる
2年次	基本的生活習慣の涵養	学校や社会のルール、公共のマナー、挨拶の大切さを認識し、行動させる。	B	社会における挨拶やマナーの重要性を継続して学ばせる
		適切な時間の管理や情報を記録させ、振り返りをさせる。	B	適切な時間の自己管理が目標達成のために欠かせないことを意識させる
	互いを認め合い協力して挑戦し続ける心の育成	学校行事やクラスの行事において主体的に企画・実行できる力を育成する。	A	具体的に何をどうすれば達成できるのかを考えさせる
		課題解決の為に、互いの意見を尊重させ、自ら考えて行動させる。	A	他者との距離感や違いを認め合う姿勢を持たせる
	主体的学習習慣の確立	主体的な学習習慣・態度を確立させ、知識を深め定着させる。	B	模試や定期試験だけでなく、毎日の積み重ねの重要性を意識させる
		短期・長期の目標を定め、達成感や振り返りを行い学力をつけさせる。	B	振り返りをもとに課題意識を持たせ、自分の成長が感じられるよう導く
	探究心と進路に対する意識の高揚	総合的学習の時間や行事などの活動を通して、興味・関心のある分野の探究心を育成する。	A	不思議さ・疑問点の解明のために考えさせる
		学びを通して将来の進路に対する意識や職業観を持たせる。	B	面談を通じて将来像を意識をさせる
基本的生活・学習習慣の確立	リーダーを中心とした生徒の自主性の育成	パーソナルレコードを活用し、家庭とも連携し自己管理を意識させる。	A	振り返りを次につなげるレベルまで高める
		後期課程進級に向け、学力の定着と共に、生活充実を図る。	B	小まめな面談で生徒自身に気づかせる
	リーダーを中心とした生徒の自主性の育成	定期的なリーダー会の開催により、リーダーシップの育成を図る。	B	話し合いの場を設け、自律的支援を進める
		個々の生徒を丁寧に見守り、教員・生徒間の信頼関係を構築する。	B	今後もコミュニケーションを大切にしてい

3年次	将来の目標を見据えた取り組み	将来の進路や生き方について考える機会を設ける。	A	B	<p>情報を与えることはできたので、今後は生徒の中で熟成できるように仕掛けていく</p> <p>グループ編成で引き続き配慮が必要</p> <p>今年度は経験、次年度は質を高める指導をしていく</p> <p>他者との距離感を引き続き学ぶ必要あり</p>
		宿泊行事・学校行事を通じて、人間的な成長を図る。	B		
	HR・道徳・総合学習・智学館タイムの活動計画と成果	総合学習の時間を通して自然探究の学びを深め、プレゼンテーション能力を養う。	A		
		自己理解と他者理解について深める。	C		
4年次	基本的学習習慣の確立	模試の事前指導・事後指導の徹底し、家庭学習を定着させる。	B	B	<p>HRや授業での指導を徹底し啓発する</p> <p>手帳を有効活用し、自己分析を徹底する</p> <p>資料やPCを更に活用して指導</p> <p>継続的に希望者は実施させる</p> <p>生徒同士で議論する機会を更に増やす</p> <p>定期的な声掛け・面談と観察を行う</p> <p>事前・事後学習をより計画的に実施</p> <p>生徒の意欲を高め、ボランティア・部活動を促す</p>
		パーソナルレコードを活用し、規則正しい生活を徹底させる。	B		
	将来像の確立と進路選択	文理選択を見据えた進路指導を充実させる。	A		
		インターンシップで進路意識の向上と具体化を図る。	A		
	人間関係の確立	学校行事やHR等においてコミュニケーション能力の向上を図る。	A		
		心身の健康に気を配り、良好な対人関係を構築させる。	B		
	社会性の育成	国内研修旅行において日本文化への意識を高める。	B		
		生徒会活動や部活動等で活躍する機会を増やし、リーダーシップの育成を図る。	A		
5年次	基本的生活習慣の涵養	自分自身を振り返り、自立心を育成する。	B	B	<p>HR等で学習・生活について自己分析の機会を増やす</p> <p>他学年との交流の機会を増やす</p> <p>懇談会や講演会への積極的な参加を促す</p> <p>委員会や学校行事等での活躍を促す</p>
		後期課程の中心としての意識を高めさせる。	A		
	周囲との協力的態度の育成	家庭と学校との協力体制を構築し、生徒の自主性を高めていく。	B		
		学校行事や部活動などを通して、周囲との協力的態度を養わせる。	B		

	自分に合った学習習慣の確立と進路への展望	1日の学習習慣や、長期的な展望に立った学習方法を確立していく。	B	パーソナルレコードの有効活用の指導		
		面談や進路講演会を通して、次年度の進路への意識を高める。	A		インターネット等を活用して更に情報収集の機会を増やす	
	社会的存在としての自己の確立	社会の一員としての自分を意識付けできるようなHRの在り方を模索させる。	B		ボランティア活動や校外活動への意識を高める	
	6年次	基本的生活習慣の確立	けじめのある規則正しい生活を確立させる。	A	A	任せる姿勢の継続と信頼感の醸成
			正しい言葉遣いを身につけ、礼儀を重んじる態度を養わせる。	A		自他を重んじることの意義の伝達
		目的意識を持った進路の実現	将来の職業や生徒の希望に沿った進路指導を行う。	B		進学意欲を引き出す工夫と受験指導力の向上
			生徒の志望する大学や学部・学科に応じた適切な受験指導を行う。	A		問題傾向の変化に対応できる学力の養成
		社会を意識した自己の確立	集団における自らの役割を自覚し、リーダーシップと協調性を育成する。	B		リーダーの資質とは何か、を問う
			他者の意見を尊重し、自らの意見を堂々と述べられる態度を養う。	A		自他を重んじる「個」の確立
			最上級生としての自覚を持たせ、自律した態度を身につけさせる。	A		下級生から見た上級生の姿の意識付け
			自分で考え、率先して行動できる積極性・自発性を伸長する。	A		自由の拡大に伴う責任の在り方の意義を考える機会をつくる
	校務分掌	教務	探究学習の追求	疑問から発見につながる探究心を育む授業を展開する。	B	探究学習を充実させる
習熟度向上の追及			4学期制採用により短い周期で学習評価を行う。	A	評価基準の共通理解を図る	
		習熟度別授業や放課後ゼミにより個人差に配慮した指導を行う。	A	習熟度別授業やティームティーチングを充実させる		
6年間を見通した教育の確立		前年度の反省及び前倒し計画を反映したシラバスを作成する。	A	年度内に改訂作業に取り掛かる		
		進学実績向上につながる教育課程とする。	B	教科主任会にて教育課程改訂に取り組む		

	授業力の向上	教科主任会と教科会を有機的に関連づける。	B		教科主任会を定例化する
		学期ごとに実施する授業アンケートに基づいて授業を改善する。	A		授業アンケートの結果を適切にフィードバックし、授業改善に活かす
	ICT教育の推進	ICT教育導入に向けた検討を行う。	A		本校に導入可能なシステムについて検討を続ける
		教務システム導入に向けた検討を行う。	C		デモンストレーションを通して業者選定を進める
進路	6年間を見通したキャリア教育プランの確立	インターンシップ(職場体験)の意欲的な参加を促すため、さまざまな業種の企業・団体を紹介する。	C	B	将来の職業を視野に入れた体験先の選択
		定期的に『Forge Ahead』を発行して、進学・入試情報の提供を行う。	C		分かりやすくタイムリーな情報提供
	生徒の学習活動の充実	夏季休暇中に学習合宿を実施する。	B		自発的・効果的な学習への取り組み
		学力向上・受験対策を目的とした課外ゼミを実施する。	C		実効性のあるゼミの開講
		夏季ゼミ・冬季ゼミの実施して、大学入試に対応した実践力の養成を図る。	B		生徒の習熟度に応じた段階的な講座内容の設定
		成績のデータを共有し、分析会などを通して、不得意分野の強化を図る。	B		進路指導部・各教科・各年次の緊密な連携
	生徒の進路実現の支援	大学進学相談会、入試説明会への参加を促す。	B		進学に対する意識の啓発
		AO入試・推薦入試受験者のための小論文指導・面接指導を行う。	B		講習会・模擬面接等への自発的な参加
生指	基本的な生活習慣の確立とマナーや振る舞いの向上	清々しい気持ちで「あいさつ」ができるようにする。	B	B	生徒会との連携強化
		振る舞いや身だしなみを自ら振り返る自己指導力の向上	B		振り返りの機会創出
		集会や式典における自己指導力の向上	A		「待つ」指導への転換
		スマホ・SNSの外部講師による講話を開催し、適切な使用ができるように指導を行う。	A		次年度も外部講師を招聘し研修
		スマホ・SNSの適切な使用への自己指導力の向上	A		「指導」から「声かけ」への転換
		公共交通機関での安全かつ適切な振る舞いの浸透	C		集会での研修機会の創出
	交通安全への理解と適切な行動力の向上	自転車通行路の適切な利用と運転マナーの向上	B	A	校内委員会を利用した啓発活動
		交通安全教室を通じた加害者・被害者としての自転車運転	A		次年度も外部講師を招聘し研修

	生徒指導における教員の資質向上	教員研修の充実を図るため、いじめ等についての事例研究や校外の研修に積極的に参加する。	B	A	法教育と生徒指導との関わりに関する研修会の開催
		発生事案を解決していくためのスキルの向上とOJT	A		年次処理力のさらなる向上
特活	学校行事の定番化	各行事のファイルや書類の整理と、引き継ぎの円滑化。 生徒実行委員会の設立と運営の支援。	B	B	生徒実行委員会と生徒会を両立させ、学校行事を発展させる。
	部活動の活性化	部活動やクラブ活動の加入率の引き上げ。	B		部活動を活発化させる仕組みづくり
		部活動やクラブ活動への支援体制の確立。	C		生徒会費等の見直しを検討する
	委員会活動における生徒の自主的活動の支援	生徒の主体的取り組みを取り入れた活動の支援。 全校リーダー会の活用とHRとの連携。	A		リーダー会の支援、リーダー教育の推進を図る
	生徒会活動の自主的活動の支援	生徒総会の運営や予算などの枠組み作り。	A		生徒総会を中心とした学校組織の仕組みづくり
		学校行事への関わり方の深化。	B		学校行事における生徒実行委員会の創設
HRの活動計画の深化	1年間を通じた計画的な活動体制の確立。	B	人間育成のためのHR計画		
	担任・副担任・校務分掌との連携によるHR運営方法の確立。	C	計画・反省を中心とした前年度の見直し		
保健	学習活動に適した環境の整備と学校の安全の確保を図る。	学校保健計画に基づき、諸検査・安全点検を実施する。	A	A	諸検査、点検の実施を継続する
		避難訓練を年2回実施する。訓練に際しては、地域との連携を図る。	A		教務との連携を密にし、年に2回の実施を継続する
	生徒の健康課題を把握し、健康教育の充実を図る。	学校保健計画に基づき、健康診断を実施し、担任や保護者と連携して対応する。	A		保護者との連携を密にし、健康教育の充実を図る
		保健だよりの発行や講演会を通じて、生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図る。	B		毎月の保健だより発行を継続し、講演会の充実を図る
		保健室の円滑な運営・管理に努める。	A		円滑な保健室経営を継続する
	インフルエンザ等の感染症について、学校医等の協力を得て、流行の防止に努める。	B	保健委員会を十分に活用し、生徒の予防意識を高める		

		心の問題の早期発見・対応に努める。	カウンセリングにおいて、スクールカウンセラーと担任間の連絡調整を支援する。	A		カウンセラーと担任間の円滑な連絡調整を継続する
			要配慮生徒について、担任、スクールカウンセラーと連携を図る。	A		情報共有を密にし連携を図る
		心身共に健康な生活送れるよう食育に関する意識啓発を行う。	食に関して関心を持てる環境づくりに努める。	B		給食における食育を検討する
			食育に関する情報の発信と意識の啓発を行う。	B		保健日よりだけでなく保健委員会でも啓発活動を行う
広報		「広報誌発行」による広報活動	パンフレット・ポスター・説明会冊子・智学館だより・各種イベントのチラシ・卒業生の合格体験記冊子などの作成を通して、新しい受験者層の開拓に努める。	B	B	刊行物の種類と部数の再検討
						チラシ等と、ウェブ広告等紙以外の媒体との広報バランスの再考
		「広報イベント」による広報活動	学校説明会・オープンスクール・入試説明会・天体観測会などの広報イベントを通して学校紹介に努める。実施に当たっては在校生と交流し、生徒達の実生活を知る機会を意識して企画し、本校について、生徒の生の声をもとに各参加者が評価できる場を作る。	A		集客数増加の為のイベント内容の吟味
						来校者の利便を意識したイベント回数増の検討
		「小学校や塾訪問」による広報活動	水戸・ひたちなか地区を中心に小学校や塾を訪問する。その他の県内の小学校や塾に対して、郵送による刊行物配布を実施する。	B		塾や小学校訪問の効果的かつ合理的なあり方の検討
		「IT機器活用」による広報活動	HP・フェイスブックに加え今年度からはLINEも活用し、学校行事・部活動・授業風景等の生徒の様子をタイムリーに紹介する。またLINEのトーク機能・ウェブフォーム等を活用し、広報イベント等の情報を、本校を受験検討校としている家庭にもれなく配信する。	A		
		新入試制度導入による広報活動	特待生認定の機会を拡大し、新しい受験者層の獲得と、第1回入試合格者の入学までの学力維持・向上をはかる。	B		県立中高一貫校の増加に伴う、入試内容の再検討
教科	国語	基礎的な学力の定着	日々の予習・復習等の学習習慣を身につけさせる。	B	B	知識の定着度・理解度の確認
			生徒の学力や理解度に応じた適切な学習指導を行う。	B		ゼミや補習による学習指導の継続
		豊かな語彙と表現力の向上	文章表現や討論等を通して実際に活用できる力を養う。	B		漢字力・語彙力の強化
			各年次に合わせた添削指導を行うことで、文章表現を向上させる。	A		小論文添削や個別指導の実践
		読解力・論理的な思考力の育成	文章を正しく読み取り、内容や論旨を理解する力を身につけさせる。	B		豊かな想像力の涵養
			説明的文章を読んで、筆者の意見に対する自身の考えを述べさせる。	B		評論・意見文等の読解力の強化

	鋭敏な言語感覚と芸術的感性の錬磨	文学的文章における場面や登場人物の心情を読み取る力を養う。	B	読書活動の推進, 学校図書館・公共図書館の利用促進	
		詩・短歌・俳句等の創作を通して, 言葉に対する感性を磨いていく。	B		
	情報分析力と洞察力の錬成	図書館・ICTを活用して自ら資料を収集し, 分析・考察する力を養う。	B		創作コンクール等への出品・応募
		情報を有効・適切に活用し, 自らの考えをまとめ, 発表させる。	B		資料や情報の収集・活用 表現力・プレゼンテーション能力の向上
数学	基礎学力の定着	定期的な課題によって, 家庭学習を充実させることで学習習慣を身に付けさせる。	B	B 他教科との連携, 継続した指導を徹底 事後指導を徹底 クラス分けの意図を明確化 基礎定着を徹底 模試, 入試問題の演習やグループワークを積極的に取り入れる 定期的な教科会を実施 校外研修への参加を促進 情報共有の徹底	
		定期的な小テスト・単元テストによって学力の定着を確認する。	B		
	個に応じた学習指導の充実	習熟度別授業や放課後ゼミにより個人差に配慮した指導を行う。	B		
		生徒の実態に合った授業を行う。	B		
	教員の教科指導の向上	教科内で, 互いの授業方法について相談や意見交換を密にする。	A		
		様々な研修に積極的に参加し, その情報や成果を教科内で共有する。	B		
社会	6年間を見通した系統的な指導の確立	ステージごとの到達目標を再検討し, ステージ間の連関を強化する。	B	B 教科内や教務部との連携を密にする 希望する進学先に対応できるカリキュラムを, 他校の例を参照して研究を続ける ESD教材の研修を深める 図表等の資料をもとに, 得させたい知識・理解へ導く発問・支援の技法を研究する 外部の研修会への参加を増やし, 教科内での検討会を実施する 生徒に考えさせたいことや習得させたい力を踏まえ, 適切な資史料を教科で検討する	
		多様な進路希望に対応できる科目選択のあり方について研究する。	B		
	実社会との繋がりを意識できる学習法の開発・実践	実社会の諸問題を体験的に学び考えるため, 活動的な実践を積み重ねる。	A		
		資料読解の機会を多く設け, 社会的諸問題を発見させる。	B		
	主体的・対話的な学びを実現する指導法の工夫・改善	アクティブラーニング型の学びのスタイルや学習課題, 発問技法について研究を深める。	A		
		先人との対話という点を重視し, 学習課題に応じた適切な史料等を選定する。	B		

理科	科学的・論理的思考の育成	「観察」「仮説」「実験」「考察」のプロセスを踏まえ実験や観察を行う。	B	B	仮説や検証方法を設定するための工夫
		実験や観察を通して得た知識と経験を用いて、レポートや研究論文を作成させる。	A		レポート・論文作成の時間確保
	探究心の育成	実験や観察から「発見する」プロセスを大事にした授業を行う。	B		授業に加え日常における身近な観察からの発見を重視する
		生徒一人一人の興味関心を深められるよう支援して、自ら探究学習に取り組める基礎を育成する。	A		継続して、身近な事象からの興味関心を引き出す場を設ける
	理科の言語化	授業中の実験におけるレポート作成を通して、論理的な文章の作成法や、研究論文の書き方を身につけさせる。	B		論理的な考察を書くための技術向上
		研究発表会などを通して、自身の研究成果をポスターやプレゼンテーションで表現する能力を育成する。	A		学校外において表現する機会を模索する
英語	基礎的な英語力とコミュニケーション力の育成	4技能のバランスがとれた言語活動を実施する。	B	B	「読む」「話す」の活動を多く取り入れる
		知識を実践で運用できるよう、場面設定や教材はできるだけ実際的なものにする。	B		実際に使われる英語を素材として使うようにする
	基本的な学習習慣の確立	定期的に小テストを実施したり、課題を与えたりして、自学自習、家庭学習の習慣を身につけさせる。	B		全生徒が取り組むよう声掛けを行なう
		外部資格・検定試験の受験を促し、自身の英語力向上のために目標を持って学習に取り組ませる。	B		全生徒が取り組むよう声掛けを行なう
	英語を用いて積極的に行動する態度の育成	幅広い話題について、情報や考えなどを整理して発表したり、話し合ったりする。	B		日本人教員が指導するクラスでも行うようにする
		調べ学習をさせたり、補助教材を利用したりして、異文化理解を深める。	B		日本人教員が指導するクラスでも行うようにする
	英語を運用する機会の充実	English Dayやその他授業内外の活動を通して英語でコミュニケーションを図る機会を設ける。	A		昼休みや放課後などの時間を使って生徒とコミュニケーションを図る。
		海外の訪問者と交流する機会をできるだけ多く設ける。	B		1回の訪問で交流の時間が多めにとれるよう、活動を工夫する

	研修機会の充実	授業担当者がそれぞれの授業について、情報を共有し、指導の工夫や改善の参考にする。	B	他の教員の授業を積極的に見学する 教員一人ひとりが努力する
		外部の研修会等に積極的に参加する。	B	
保体	保健学習の充実と知識を活用する学習活動の取り入れ	心身の発達と心の健康について理解させる。	B	B 学んだ内容に強い興味を持たせるために、発表の場を設ける。 見る、聞く、話す、感じて、考えることでより深い理解につなげる 各種目に応じた補強運動を取り入れ、基礎体力を高めていけるよう、時期や活動などの工夫を増やす 基礎的技術の習得の機会を設けるために、グループで話し合い活動を実施する。ICTを活用した授業・視覚的な授業の充実を図る 選手を取り巻く環境(対戦相手や観客など)や、精神面(心)を読み解く力をつける為に、体育理論や道徳授業の中で考えさせ、またその時期を検討する
		健康と環境、傷害の防止について理解させる。	B	
		健康な生活と病気の予防について理解させる。	B	
		ディスカッションやブレインストーミング、実習の取り入れ。	B	
	基礎体力を高め、心身の調和的発達を図る	授業及び体力テスト等への積極的参加の姿勢を育成する。	A	
		体づくり運動の効果的な実践を行う。	B	
	運動を豊かに実践することができるようになることとコミュニケーション能力の育成	運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	B	
		基礎的な運動技能を習得させる。	B	
		ルールを理解させる。	B	
		練習や作戦、課題解決の方法の確認を話し合う機会を設ける。	C	
決まりを守り、互いに協力し合う態度を養う	規律ある行動をとり、マナーやルールを遵守する。	B		
	フェアプレー精神を遵守する。	B		

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない